

特集 2 オープンイノベーション

新たな価値の創出を
加速させる力

オープンイノベーション



■ クボタグループの無形資産

人口増加や地球温暖化の深刻化など、世界の社会課題は今後さらに高度化・多様化していくことが予想されます。このような拡大する課題を解決していくためには、これまで以上のスピードで、これまでになかった新しい価値を創出し続ける必要が

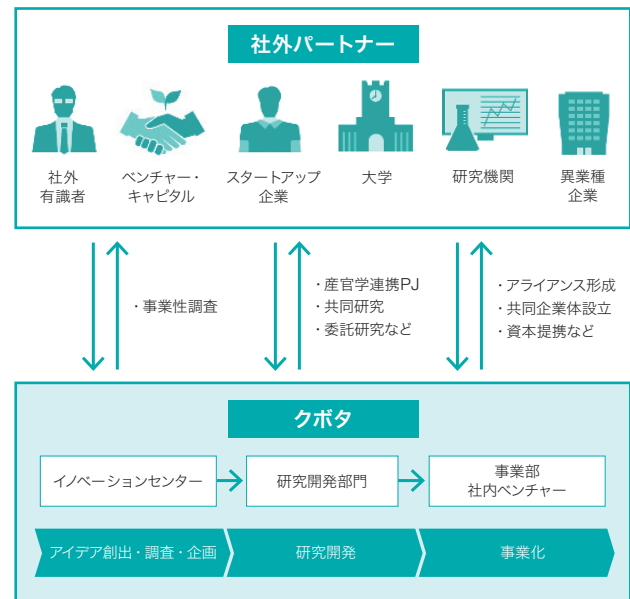
あります。そのため、クボタは、食料・水・環境分野を注力分野として、様々なパートナーを重要な無形資産と捉えてオープンイノベーションによる課題解決に取り組んでいきます。

■ クボタが考えるオープンイノベーション

クボタはスタートアップ企業、大学、研究機関といった社外パートナーとの連携を強化するオープンイノベーションを推進しています。世界には将来社会的に大きなインパクトを与えるような、最先端技術を持つパートナーが数多く存在します。私たちの経験と技術、彼らの最先端技術を融合し、将来起こり得る社会課題を先駆けて捉え、それを解決するソリューションや事業を創出していきます。

■ クボタがめざす オープンイノベーションの姿

クボタはICTやAIなどの最新技術を活用し、新たな価値の創出を図っていきます。例えば、食料分野では購買から加工、販売、消費にわたる農業生産の一連の流れを包括したフードバリューチェーンを支えるトータルソリューションの提供をめざしています。この実現のために、オープンイノベーションを通じて、「農作物生産におけるスマート化」と「フードバリューチェーンの川上・川下への事業拡大」を加速させ、すべてのパートナーをつなぐ役割を担い、アグリプラットフォームを実現したいと考えます。



■ オープンイノベーションの取り組み

ドローンとIoTを活用した、 果樹栽培システム自動化の実証実験

クボタの機械技術と果樹栽培の先端技術を組み合わせ、果樹栽培システムの自動化の実証実験をオランダのスタートアップ企業「Aurea Imaging」と進めています。Aurea社はドローンやIoTセンサーで入手したデータにAIを組み合わせ、果樹園などの収量予測や土壌マップ作成などのサービスを手掛けており、この高度なセンシング技術とクボタの果樹園向け農業機械を融合させることで、果樹栽培分野におけるトータルソリューション提供の可能性を検証しています。



植物工場向け人工光型植物栽培装置開発を 手掛けるアグリテック企業に出資

異常気象等の外部環境に左右されることなく、安定的で高い生産効率を実現する「人工光型植物工場」に着目し、この分野で先進的技術を用いて人工光型植物栽培装置の開発を行っているプランテックスに出資しました。

クボタはプランテックスとの連携を強め、事業を共に推進することで、食料生産の効率化・供給安定化の実現に貢献します。



農機シェアリングサービスの試験運用

新たに農業に挑戦する方々を中心に「所有から使用へ」という意識変化が起き始めています。農業機械の更なる高機能化、自動化もこの変化を加速していくと考えられます。

クボタは、新たな農機の活用方法を提案すべく、農機シェアリングサービスの試験運用を国内の一部地域で実施、本サービスの構築に向けた課題の抽出・検証などの準備を進めています。



■ オープンイノベーションを支える活動

オープンイノベーションを推進するためには、社外パートナーとのネットワーク強化が必要です。クボタは欧米のスタートアップ企業との連携を深めるプログラムへの参加や、農業の国際団体での活動を通して、最先端技術をいち早く取り入れられるような動きを進めています。

